

平成29年度 日南市立細田中学校

自己評価 及び 学校関係者評価

A B C Dの4階評価

経営ビジョン重点目標	役割達成度評価との関連	調査項目No.	到達目標	自己評価	自己評価		学校関係者コメント
					項目別	総合	
(1)「豊かな心」の醸成	① 道徳教育、人権教育の充実に努める。 ② 基本的な生活習慣の確立に努める。 ③ 主体性のある生徒の育成に努める。	1	道徳教育の充実を図り、相手の立場に立った言動をとる態度が身についている。	道徳教育、人権教育の実践のもと、相手を思いやる言動がとれる場面も見られ、改善してきている。今後、生徒理解を深め、実態に応じた「道徳の時間」や日常指導の充実を図るとともに、社会情勢も織り交ぜながら豊かな心の醸成に努める。	B	B	基本的に相手を思いやる態度は身に付いているよううかがえる。「いいじめ」について、教師が気付かないこともあると思うので、情報交換が図りやすい職員の人間関係の構築が大切であると感じる。
		2	基本的な生活習慣(時と場合に応じたあいさつ、返事、反応、早寝早起き、朝ご飯)が身についている。	一部の生徒に生活習慣が身に付いていない生徒が見られる。早寝早起き・朝ご飯など家庭生活における生活習慣については、今後も保護者との連携を強化していく必要がある。	B	B	基本的な生活習慣がまだ身に付いていない生徒が見られるようである。登下校時の地域でのあいさつはしっかりできていることを考えると、特に低学年の生徒の到達率が低いのは、まだ照れなどの心の成長の未発達があるのでないか。
		3	自ら考え、判断し、行動する力が身についている。	生徒会役員を中心に、責任感をもって様々な企画・運営に取り組んでいる。特に上級生が模範となって実践している姿が見られる。これらの取組が日常生活に反映されていないものもあるので、ゴールイメージをもたせて達成させていきたい。	B		学校だよりや学校行事の様子から、生徒が主体的に活動している姿が感じられる。上級生が下級生の模範になっているので、下級生に引き継いでもらいたい。
(2)学力向上の推進	① 授業の指導法の工夫・改善を行う。 ② 読書活動の推進を図る。 ③ 小中で一貫した家庭学習習慣の定着を図る。	4	生徒は、毎日の授業に対し、「わかる」「できる」喜びを感じている。	「わかる授業」を目指すため、さらに教師の指導力向上と授業改善に努めていく。そのためには、基礎・基本の定着を図っていく必要がある。	B	B	「わかる授業」に関して、生徒と教師のアンケート結果に差が見られる。職員には、「わかる・できる喜びをもっと生徒に味わわせて欲しい。わかる授業を展開するためには、教材研究の時間を保障することが大切である。そのため職員増をお願いしたい。
		5	自ら良書に親しむ姿勢が身についている。	「朗読」の時間では、学校図書館司書等と連携を図り、本の精選・指定や活動の自己評価などに取り組み、指導の充実を図る。また、ビブリオバトルなど、読書啓発に係る取組を授業や生徒会活動を通して実践していく。	C	B	読書の習慣が身に付いていないように思われる。学校は、朝自習の時間に読書の時間を設定しているが、家庭で良書に親しむ時間を確保できるとよいと思う。
		6	学年に応じた家庭学習の習慣が身についている。	LSB(スケジュール帳)の活用や宅習ノートの充実など、課題が多い。家庭学習の習慣を身に付けるには、家庭との連携はもとより、小学校からの習慣づけが必要であり、家庭及び小学校との連携を密に図っていく。	B		3年生は意識が高いようである。学習意欲が目標に向かって高くなっていると評価される。1年生は小学生気分が抜けきっていないようにも感じられるので、1年生のときから、受験を意識した取組が必要である。
(3)特別支援教育の推進	① 小中で連携を図りながら学習支援を必要とする生徒への学習支援を行う。 ② 個別指導の充実を図る。 ③ 特別支援教育研修を充実させる。 ④ 教育相談を推進する。	7	小学校時代から団り感を抱える生徒への支援体制ができている。	1年学級担任を中心にきめ細やかな個別指導がなされ、その情報を共有することで支援が必要な生徒には、体制や対策を講じることができた。	B		支援が必要な生徒に対しては、指導工夫をもとに対応されているようである。小学校との連携をさらに深めながら、支援の充実が図られることを期待したい。
		8	個別の指導計画が作成され、その実践が図られている。	個別の指導計画の作成を通して、生徒理解が深まり、実践に向けた体制づくりに役立たせることができた。今後は、指導計画に従った実践を深めていく。	B	B	個別的な指導は大変なことだと思うが、生徒一人一人に目を向け、個に応じた指導が模索され実践されているのは良いことである。
		9	校内研修が充実し、情報の共有化を図る場が設定されている。	校内支援委員会を通じて、情報の共有化を図ることができたが、共通実践の面で教職員間の対応のあり方に差がみられた。今後さらに校内研修を充実させ、教師のスキルアップを講じていく必要がある。	B		生徒を大切にする心、互助の心を大切にしながら取り組まれていると思う。職員間の対応に差がない取組をお願いしたい。
		10	計画相談およびチャンス相談が実施されている。	計画的相談を通して、様々な情報の共有がなされている。今後は、相談時間のさらなる確保と相談方法の工夫も視野に入れ、生徒の悩み解決やキャリア教育の充実に向けて取り組んでいく。	B		学期に1回の計画相談が位置づけられているだけではなく、常時相談も行われていると聞く。それでもなかなか相談できない生徒もいると思われる所以の、職員から生徒への声かけも機を見て行ってもらいたい。
(4)健康・安全教育の推進	① 体力、運動能力の向上を図る。 ② 保健教育を推進する。 ③ 安全教育・防災教育の充実を図る。	11	新体力テストの結果をもとに、弱点の強化を図る。	本校の生徒の実態と県が強化を図っている項目について、保健体育科の授業を中心に取り組んでいる。特に持久力についての向上が望まれるため、体操の授業内容を工夫していきたい。	B		子どもの体力低下が加速している現在において、安全で健康な生活を送るにはまず、体力が必要であると考える。学校では、保健体育の授業を通して、生徒の弱点を補う取組がなされているが、一朝一夕には向はみこめないので、持久力をつける指導の工夫をお願いしたい。
		12	将来的に健康管理や自己管理ができるよう、定期健康診断等をもとに、治療に行くよう啓発する。	啓発については随時、お知らせや通信等を通して対策を講じてきただが、家庭によって受診等に対する意識の差が見られるため、粘り強く生徒及び保護者への啓発を図っていく。	B	B	健康管理については保護者の指導が基本であり、学校の役割はサポートであると考える。学校による生徒の健康管理について、責任を果たされていると思う。今後も生徒と保護者に啓発を続けてもらいたい。
		13	交通安全指導や避難訓練を通して、自ら考えた危険回避のあり方等を身につけさせる。	生徒の交通ルール遵守の意識が高い。防災訓練の取組も良好である。今後は特に、複数のカバンを積んでの登下校時の安全な自転車の乗り方について、指導していきたい。	B		安全に対する生徒への啓発がなされ、訓練も充実していると感じる。自転車の乗り方や交通安全に関しては、まずは家庭で教えるべきことだが、学校でも指導を継続してほしい。

校長所見

本年度は、「『学び』の想像」、「『夢』に向かう」、「『思いやり』を育む」をスローガンに掲げ、家庭や地域との連携を密にしながら、知・徳・体・食の4つのカテゴリーについてバランスよく指導に取り組んできた。ICTの効果的な活用や指導方法の工夫・改善に努め、生徒の学力がやや伸びるなどの成果は見られたが、学年差や個人差があるため、わかる授業や個に応じた指導の工夫・改善を行い、さらなる基礎基本の定着と活用する力の育成に努めていきたい。また、生徒一人一人に目を向け、個に応じた支援や指導のあり方を工夫などの研修と実践を深め、特別支援教育の充実を図っていきたい。さらに、日々の保健体育の授業や部活動、及び食に関する指導や給食指導などの食育の充実を図ることで、生徒の体力向上や健康の増進に努めていきたい。